

～ 桜花満開・観音山公園にて ～



震災で全壊した長田中央小売市場共同組合（理事長・宮本昭弘さん）から震災資料室にこの度、当時の写真が贈られてきました。この市場は震災直後の二月十三日に村野工高の西北の川の端に仮設店舗を建て炊き出し等を行い、被災した市民から喜ばれてきました。写真にはリュック姿でうどんをよばれていゝるものや、廃材を斧で薪にしているのがあり、いずれもイキイキとした市民の姿が写し出されています。

長田中央小売市場は元の場所である六番町八丁目三番地に地上十階建てで、七〇六平方米の店舗・共同住宅が計画されており、平成十年六月完成で、市営住宅も二七戸予定されています。

長田中央小売市場が 写真五十六点寄贈

人・街・ながた 震災資料室だより

人・街・ながた
震災資料室 発行
〒653 神戸市長田区北町3-4-13
電話(078)579-2311
発行人/寿 広文
編集人/武川・福谷

第4号

① 写真寄贈(56点)
② 「アテンボ」の詩人
③ 上野賀山氏の作品
④ 資料リストNo.2

4. 今だから、と思う記録収集...

今だからこそ思う記録収集。



私が生まれて35年になるが、記憶している大きな災害で一番古いものは、長野県のある村であった土砂崩れだ。多くの方がなくなり、全国から善意の物資が送られて

検証の重要性

SVA神戸事務所

市川 斉

きた。そして、しばらくたってから、送られてきた物資が農家のビニールハウスに放置されている姿が映し出されていた。一戸あたり200箱にも上るといふ。その多く



え、内森聖子

が古着で、被災されたニーズにあっておらず、送られた方も困惑していたのをなぜか覚えていて。

そして、今回の大震災。莫大な善意の物資が全国各地から送られてきて、被災された方に役立つものも多かったが、多くの混乱を招いたのも事実であった。これだけの災害だったからやむを得なかったかもしれないが、無秩序な物資の集中は、道路の大渋滞、現場の行政職員・ボランティアの手を必要以上にさかねばならなかった。アメリカでは、「物資は第2の災害」とも言われ、必要な物資しか現地に送られないようなシステムになっているという。いつも同じことが、繰り返されてしまうと思うのは私だけだろうか。

あるマスコミ関係者に報道する段階で、送付物資の種類の限定したり、輸送方法のシステム化して報道出来ないか聞いてみたが、情報の送り手と受け手をつなぐのが役割だから難しいとのことであった。

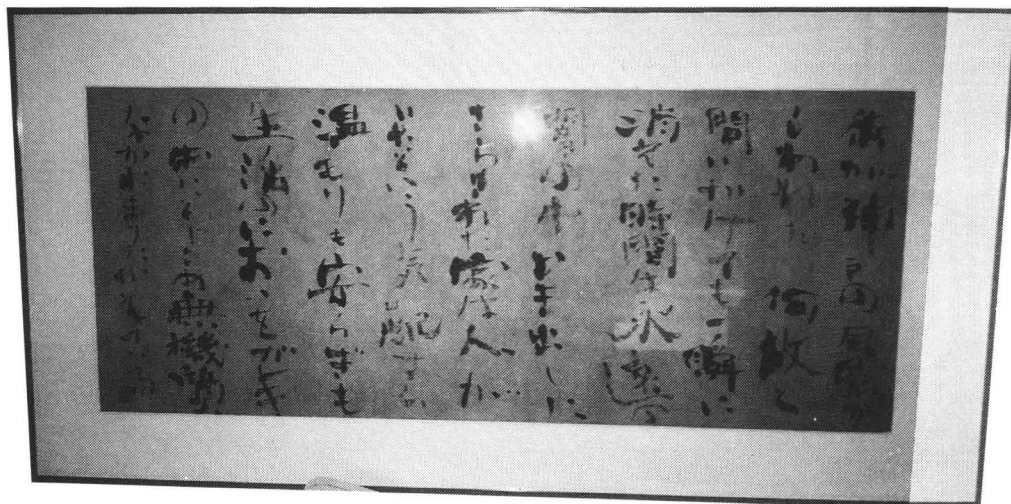
そんな折、市職労長田支部長の清水氏より、災害時から今までの記録収集を有志で行なっていると伺った。地味な作業であるが、とても大切なことだと思う。緊急救護活動している当時は、記録の重要性など考える余裕すらなかったが、今になって、当時の自分自身を反省し、記録の重要性が身にしみている。物資に限らず、様々な角度での記録収集とそれに基づく検証がされればと思うこの頃である。

同じ過ちを繰り返さないためにも・・・。

見慣れていたはずの風景
 クリーニング屋のとなり
 突然の空き地
 昨日までの建物は
 まぼろし
 ゆきずりの人になってしまった一瞬
 忘れることに慣らされたまま
 街は
 だれのものでもなく
 立ち止まる私をおしのけて
 今日もまた空き地がひとつ
 幻を現実だと
 現実を幻だと
 眠っている間に
 私の名前は
 マボロシ
 街に穴があいていく
 穴に吸い込まれるように
 建物が消えて行く
 やがて人の名前も
 そして風景が透明に

街

鞍田 慶子



== 震災資料室 資料リスト No.1 順不同 ==

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 30 神戸市立看護短期大学からの記録 | 神戸市立看護短期大学 |
| 31 駒中235日の記録 | 神戸市立駒ヶ林中学校 |
| 32 ひびきわたれ みくらの思い | 神戸市立御蔵小学校 |
| 33 阪神大震災と真陽小学校 | 神戸市立真陽小学校 |
| 34 阪神大震災一記録集一 | 神戸市立大橋中学校 |
| 35 震災の記録 | 神戸市立池田小学校 |
| 36 阪神・淡路大震災一証言ベッドサイドから | 神戸市立中央市民病院看護部 |
| 37 阪神・淡路大震災の記録 | 神戸女子商業高校 |
| 38 と神戸ケミカルシューズ産業の復興への課題 | 神戸商科大学経済研究所 |
| 39 神戸新交通システム阪神・淡路大震災復旧記録集 | 神戸新交通株式会社 |
| 40 兵庫県南部地震による震災の記録 | 神戸大学 |
| 41 震災の記憶と復興への歩み「真野っ子ガンバレ」 | 真野地区復興まちづくり事務 |
| 42 わがふるさと郷 | 西の副都心街づくり協議会 |

上野 賀山 「書」小品展一

そして、二年目の神戸から
 「ア・テンポ」の詩人たち

激震地から遠く近く

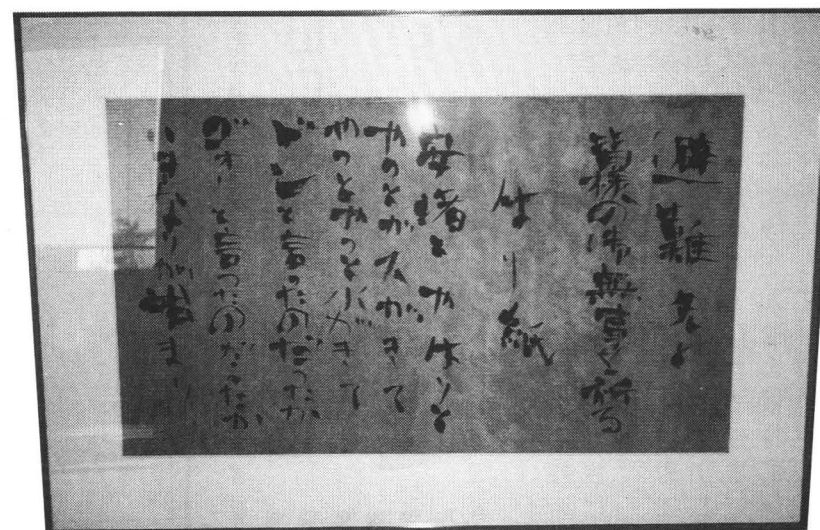
梅村 光明

街がこんなにも静かになる
 ものだとは……
 街がこんなにも低くなる
 ものだとは……
 街がこんなにも悲しくなる
 ものだとは……
 人がこんなにも強くなる
 ものだとは……
 人がこんなにも優しくなる
 ものだとは……
 人がこんなにも大切な
 ものだとは……
 知らなかった
 きみよ
 激震地に立て

はるの中へ

山口 洋子

ながい一瞬のあとの空ろ
 重い気持で だから
 はやる気持で
 ガレキの路地を まっさき歩いて
 白いモクレンの あの木
 つぼみは グンとふくらんでいた
 避難先と 皆様のご無事を祈る
 はり紙
 安堵と やはりと
 やつとガスがきて やつと
 やつと水がきて
 ドンと言ったのだったか
 ゴオーと言ったのだったか
 いきなりが 始まり
 ガリガリバリバリッ
 ガリガリバリバリッ
 とり壊されている こうべ



上野 賀山氏から
 「震災資料室」に寄贈された作品